



就労に困難を抱える人を支援するみなさんに向け

-就労支援員・居場所支援員・子どもの貧困対策支援員・特別支援学級の教員など

○△□実践型研修

2019 報告書

2019年12月19日（木）@那覇市民体育館。遊びやスポーツを通して「ともに働くことを考える、「○△□実践型研修会（第8回ダイモンカップ）」を開催しました。2012年からこれまでスポーツや文化、そして寄付などのアクションを通して社会課題への参画をより一層進めるための参加型イベントを実施してきたダイモンカップ実行委員会でも初めてとなる支援員研修です。2020年に東京オリンピックパラリンピックを控えたこの時期に、多様な背景を持つ人々が集い、市民ひとりひとりがともに参画できる社会的発信のインパクトの拡大を目指したプロジェクトです。就労や雇用に立ちはだかる、身体・知的障害や依存症、生活困窮など個別の困難を支える支援員の皆さんとのトークセッションと当事者支援の現場で実施している遊びプログラムへの体験を通して、「ともに働くこと」を学ぶ場となりました。私たちの学びをぜひご覧ください。

目次

I. ともに▲さんかく▲する皆様へ	3
障がい者雇用に関する課題	3
スポーツ／遊びの利点	3
ダイモンカップができるネットワークの強み	4
ダイモンカップについて	4
II. 参加者属性から分かること	5
III. 参加者アンケートからの改善点の抽出	6
3、その他、このイベントで良かった点 や改善した方がよいと思われる点 があれば教えて下さい。自由記述	6
IV. 実施概要	7
1 スポーツプログラム実践	9
2 おべんとーくセッション	12
次回に向けて	13
3 おべんとーくセッション／アトラクション	14
4 さんかくアクション	15

I. ともに▲さんかく▲する皆様へ

障がい者雇用に関する課題

障害者雇用促進法では、企業に対し常時雇用する従業員の一定割合（法定雇用率、民間企業の場合は2.2%）以上の障害者を雇うことを義務付けています。厚生労働省は平成30年、民間企業（45.5人以上規模の企業：法定雇用率2.2%）に雇用されている障害者の数は534,769.5人で、前年より7.9%（38,974.5人）増加し、15年連続で過去最高となったと報告しています。しかし、法定雇用率を達成している企業は45.9%と、半数以上の企業が雇うべき障がい者の方の雇用をされていないという現状もあります。

また、2006年に障害者自立支援法が策定され、当事者の「自立」を目標に掲げ、就労支援を強化していますが、障害福祉関係予算は年々増加傾向にあります。

「障がい者雇用を行う企業の思いを汲み取り雇用のハードルを軽減する活動はできないか」
 「就労支援事業所職員が、就労サポートを行うための支援者同士のネットワークをつくる」

今回ダイモンカップは「遊び」を通して、障がいを持っている方の就労について考えます。

スポーツ／遊びの利点

平成30年度障害者雇用実態調査結果（N=6,181）によると、企業側による「今後の障害者雇用の方針について」の回答では、半数以上が「わからない」と回答しています。企業で働く方々の障がい者に対してのステレオタイプの問題や、そもそも障がい者を雇用することへの意識が低いなどの問題点も挙げられると思いますが、私たちは「本当に障がいのある方と一緒に働くイメージがつかない」と考えています。なぜなら、普段働いていると障がいを持っている方との交流を行う時間や場所、機会がそう多くないからです。また、交流と言っても福祉事業所へ訪問や、ボランティア活動、寄付などと利他的な活動が目立ちます。大事なことは障がいのある人も、ない人も同じ目線にたち、共感し合う体験を重ねていくことです。

その点で、スポーツ（遊び）はとても効果的な手段です。フットサルでは、コート上では球を追いかける一人のプレーヤーそれ以上、それ以下でもありません。障がいのあるなし、関係がなくなります。車椅子サッカーでは、車椅子の方のボールさばきに会場が湧きます。ボッチャやゴールボールなども障がいのない方々が一緒に参加をしても楽しむことができます。

私たちは、障がいのある人もない人も笑顔でスポーツに参加し「楽しかった、また来年もやろうね」と笑顔で話し合う場面を何度も見てきました。そういった、共感し合う体験があるからこそ、初めて「わからない」という考えが変わっていくのではないかと、思っています。

ダイモンカップができるネットワークの強み

支援を行う事業所は、それぞれの事業所に得意としているサポートがあるにもかかわらず、事業所内で抱え込む傾向があります。

ダイモンカップでは、第5回から沖縄県で障がいを持っている方へ支援を行う事業所団体を集めて「○△□（まるさんかくしかく）カップ」を開催しています。○△□カップではこれまで、県内外問わず、うつ病からアルコール依存症、ホームレス支援、子供の貧困・居場所支援などを行っている10団体以上が参加しました。やることはシンプル！支援を行う事業所がスポーツイベントを通して集まり、共に汗を流しながら交流を行います。そこで生まれた「一緒に遊んだ人」がいざれ、「困った時に助けてくれる人」に変わっていきます。

「アルコール依存症の人はこの団体に相談しよう」「気分障害はこの団体に」「子供については、」などと、遊びを通してネットワークを作り「**支援者の孤立**」を防ぐことができるのです。

遊びを通してお互いを知ることからはじまる「はたらくこと」の大切さ

ダイモンカップについて

daimonCUPは、日本最大級の社会貢献型サッカー大会です。「貧困・孤立に抗するコミュニティ作り」をモットーに2012年にスタートしてから、1万人以上の人々をこのムーブメントに巻き込んできました。女性の社会参画や孤立・貧困リスクに着目し、スポーツや文化など「余暇」をきっかけとして市民や行政、企業、NPOとつながる協働のプラットフォームです。

II. 参加者属性から分かること

■ 休サユ6月25日(月)9(名)監(九)

勺箸	21	60.0%
金勺箸	14	40.0%
	35	100.0%

仰(水)(日)②② ^{タス} (名)至 ^{タス} 噶人(名)監 ^リ 5点(十)口 特	9	50.0%
チヤンサン ^{タス} 25條憲 ^{ミツ} 会 ^{ミツ} 數 ^{ミツ} 2病 ^{カイ} 2点 ^{カイ} (十)23優 ^{タス} 24ヲ(九)dB(名)監 ^リ (二)	6	33.3%
條憲 ^{ミツ} 適 ^{タス} 偽事(名)至 ^{タス} 丟 ^{タス} 適 ^{タス} メガ丞 ^{ミツ} 財 ^{ミツ} 財 ^{ミツ} 30(二)(二)(九)ギ ^{タス} (九)社 ^{タス} 24(二)	4	22.2%
條 ^{ミツ} 偽事 ^{ミツ} 財 ^{ミツ} 財 ^{ミツ} 特 ^{タス} (十)2328有 ^{タス} (四)25MWチヤン ^{タス} 25(休)24(十)財 ^{ミツ} 30(二)(二)28(九)	4	22.2%
タクル ^{タス} 仰(水)(日)22適 ^{タス} 偽事(名)至 ^{タス} (二)24(二)(十)仰(水)25212837		
ヨ ^{タス} 一 6月2923優 ^{タス} (日)22適 ^{タス} (名)至 ^{タス} (二)特 ^{タス} 28(九)dB(名)監 ^リ (二)	3	16.7%
條憲 ^{ミツ} 26日 ^{タス} アバト金 ^{タス} 條 ^{ミツ} 偽事 ^{ミツ} アバト ^{タス} メガ丞 ^{ミツ} 27(月)特 ^{タス} ヲ(十)(二)24(二)	1	5.6%
(呼)28伎 ^{タス} :	0	0.0%
	18	100.0%

- 「仰(水)(日)2225バー(財)特リラ5点25(休)(ニ)至2点至29九特水28通3(休)sr(六)至21(有)(ニ).

儻20點\\$28(ヲ)ジタル裏	18	69.2%
(月)資優22些21(十)21(月)特(九)	14	53.8%
些21(22)ム四儀21(22)螺旋	12	46.2%
窿ギカ24喋21(十)MQ社財特(九)	10	38.5%
些21(適)da金社財特(28)九)	9	34.6%
儻20點\\$28必23點17點29(23)四(九)	7	26.9%
仆偶「ベーピル6日29(23)四(九)	5	19.2%
偷21(28)口方21(29(23)四(24)特(九)	3	11.5%
cc偶(有)財24(2)(九)	3	11.5%
丟纏九21仰金特(28)九)	3	11.5%
(呼)水(呼)水條憲21(月)特(28)九)	3	11.5%
晉儻29口特(九)	1	3.8%
玄21(28)虫22點ガ一KB29(23)四(九)	1	3.8%
(呼)28伎:	0	0.0%

■「働くことに関して、何か興味・関心がある、または気になっていること」として、「働くことに対して漠然とした不安があること」「事前に就職先候補の担当者がどんな人か知りたい」などが上位回答になっている。さらに「6. 働くことに関する不安について」「勤務先の人間関係」が一番の不安要素となっていることが分かる。そのため、今回のような研修と交流の双方にアプローチできる方法は有効と考えられる。

III. 参加者アンケートからの改善点の抽出

3、その他、このイベントで良かった点や改善した方がよいと思われる点があれば教えて下さい（自由記述）

- ・ トークセッションの内容、環境づくりはとても良かったが、もっとオーディエンス側に企業や行政の方も入ってほしい。スポーツとトークセッション 2 本立てでやったことでどっちつかず？になっている印象だった（参加人数の影響もあるが）
- ・ 前回と今回参加でしたが、ウォーミングアップがいきなりハードで普段運動していない私や相談者の方には厳しかったです。もう少しゆっくり筋肉をほぐしていただけたらとても助かります。
- ・ スポーツをやって楽しかったけど、ぼうサッカーは●●たくてざんねんだったと思います。
- ・ スポーツプログラムでは何回も同じスポーツをやったことが不満
- ・ 準備運動のストレッチがきつかった
- ・ 課題(目的)を限定することは良いことだと思いました。ただ前回とイメージが変わりとまどいがあった。
- ・ 色々な体験をすることができ初めての体験もできて良かった
- ・ トーナメントもしたかった
- ・ 試合、イベントのタイムスケジュール等、子どもにも広報できるような詳細がほしい
- ・ 大会形式がいいと思う
- ・ 今までにやったことない球技に参加できたので良かったです
- ・ トークセッションは聞けていない。バドミントンがあればマジで嬉しいです
- ・ 楽しかった
- ・ テーブルゲームもしたかった。オセロ、将棋、麻雀
- ・ ボーサッカーエアーに？
- ・ ウォーミングアップ、改善。わかりにくい。ほったらかし。

■運営側の改善点

- ・今回のプレ実施に当たって予測される回答。種目や競技形式に関する要望については引き続き今後も取り入れたい。

■総括

「支援員」研修と銘打っているが、それを理解していない支援員もいたであろうことが予測される。「なんのための」支援／プログラムなのか、支援員がお客様、支援者に対して「支援される」待遇を望んでいいのか。それは支援をされ続けることに繋がらないかを再確認する必要があるのではないか。

IV. 実施概要

遊び×支援プログラム体験＆トークセッション

2019.12.19

**ともに働くことを考える
ー障害者雇用・就労支援の現場からー**

○△□実践型研修会 2019

会場：那覇市民体育館 定員：50名 参加費：2,000円

● こんな方に受講をおすすめしています ●

「就労につなぎたいけど企業に理解してもらえるか不安」

「働きたいけど、まずはどこに相談に行けばいいの？」

「障害者雇用で働いてもらってるけど気をつけることって？」



● キーワード ●

うつ／薬物依存／生活困窮／ひきこもり／身体・知的・精神障害／パラスポーツ／遊び

※関心のある方であれば、どなたでも参加できます。詳細は実施要項を確認のほど。



●当日タイムスケジュール●

Time	総合受付	メインアリーナ A	メインアリーナ B	サブアリーナ
9:00			会場設営	
9:30	受付開始			
10:00-10:10		オープニングアクト		
10:10-10:30		研修講師・団体の紹介		
10:30 - 10:50		全体ウォーミングアップ		
10:50 - 11:10		アイスブレイク		
11:20 - 12:30	さんかく アクション	スポーツプログラム体験（前半）		
12:30 - 13:00		おべんとーく／振り返り WS		
13:10 - 13:30		沖縄ダルクによるエイサー演舞		
13:30 - 14:50		スポーツプログラム体験（後半）	トークセッション	
14:50 - 15:00		クロージング・セッション		
15:00 - 15:30		アンケート等回収／名刺交換会		
- 16:00		FINISH		

○△□実践型研修会 2019 実施要項

1. 催事名	○△□実践型研修会 2019 (同時開催ダイモンカップ○△□2019)
2. 目的	障害者雇用や当事者の就労においては、就労を支援する側／される側、そして受け入れる企業側において非常に前向きな姿勢を示しながらも、障害や病気などの困難を抱える当事者との接点がないことで実際の障害特性に対する理解が得にくいことや、一度就労への移行を果たしたあとでも、症状が重症化し再び支援機関へと戻ってしまうことが課題の一つとなっている。そこで、本研修では①障害特性に関する相互理解を深めるためのプログラムの作成、②ヒアリングの実施のためのコミュニケーションスキルの向上、③就労前後の重症化予防に効果的な支援方法を学ぶことを目的とする。本研修は、①スポーツプログラム体験と②ワークショップ、③トークセッションの3段階で構成されており、上記の各目的と対応している。
3. 研修目標	(1) 協力してプログラム参加し、他者の抱える困難への配慮とは何かを学ぶ。 (2) 対象者が自ら行動変容・自己開示できるための課題について理解する。 (3) 効果的な指導を実践している事例を共有し、今後の支援方法に活かす。 (4) 今後、実際の就労・雇用に関して困ったときに連携できる相談施設と協力関係を結ぶことができる。
4. 主催	一般社団法人 daimon
5. 協力団体	一般社団法人沖縄ダルク／公益財団法人沖縄県労働者福祉基金協会／株式会社 Bowl
6. 日時	2019年12月19日(木) 10:00～15:30
7. 会場	那覇市民体育館 (〒902-0078 沖縄県那覇市字識名1227)
8. 受講対象	(1) 福祉事業所子どもの居場所等において就労相談に携わる支援員 (2) 行政・企業において障害者雇用に携わる担当者等 (3) 介護施設等において運動機能促進評価に携わるマネージャー等 (4) 当事者支援に関心のある関係者※特に下記のような困難に焦点化する ①生活困窮、②薬物依存、③ひきこもり、④精神障害、⑤身体・知的障害 同じチームになった方と楽しくフェアプレイができる方 フットサル／ボッチャ／シッティングバレー／ウォーキングサッカー／ ゴールボール／棒サッカーなどを予定。※参加者の特性に応じて変更あり。
9. 参加資格	(1) タックルやスライディングなど、危険なプレイはすぐ止めます。 (2) 無理はしないこと。大会当日、無断欠席や不戦勝などが起こった場合にも相談してなんとかする心構えをお持ちください。
10. 競技種目	
11. 競技規則	



1 スポーツプログラム実践

今年のダイモンカップでは例年のフットサル＆車椅子サッカーではなく、誰でも気軽に参加できるけど、あんまり実はやったことがない、それでも参加者同士が笑顔で楽しめる種目としてパラスポーツ（ゴールボール・棒サッカー・ボッチャ・シッティングバレー）を取り入れました。朝のアイスブレイク→ウォーミングアップ→デモンストレーション→競技の実施→お昼休憩→午後の本気のフットサル。ここまでが一日の流れです。事前のMTGで「一日通せるか分からぬけど、まずはどこまでできるのかやってみたい」という意気込みを尊重しました。その結果、やっぱり午後まで体力は持ちませんでした。それくらい本気の活動が見られました。



パラスポーツの様子

遊び × コミュニケーショントレーニング体験

パラスポーツ



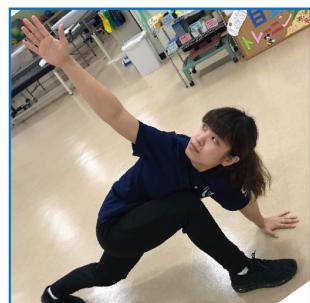
一橋大学大学院博士課程
かわだ さちお 先生

アイスブレイク



一般社団法人 daimon
あっちゃん 先生

ウォーミングアップ



バークレー整形外科
恩納ちひろ 先生

○遊び・スポーツプログラム研修全体監修

一橋大学大学院社会学研究科・日本学術振興会特別研究員 糸数温子 氏

人が笑顔になるようなゲーム性があつたり、娯楽色が強く、趣味の範囲として認識されているプログラムを取り入れると「遊ばせてるだけでしょ」と言われます。また、支援者の中にも「ただ遊ばせてるだけ」と勘違いしている人もいます。ゲーム性が内包されるプログラムであつても、それは自動的に彼らの成長や良きトリガーにはなりません。ともに過ごす人が、お互いに、この遊びに前向きに△したときだけ出現する化学反応です。「遊ばせるよりも前にやることがあるでしょ」という風に人間らしい生活を取り上げるような態度も、「好きなように遊んでたらしいさ」と孤立を促すような無理解も、人が他者と関わることで得られる人生の構築を軽視しているんだと思います。

遊びのあるアイスブレイクや競技設計、その間の声掛けは必ず意図が存在します。例えば、競技団体をミックスしたアイスブレイクを行うことで、他支援団体との交流のきっかけを作ります。必要に応じて、緊張度の高い参加者がいる場合にあえてハイタッチのような身体を拓くアクションを用いることもあります。老若男女が一齊に同じ動きができるよう、具体的な指示とコーチングのスキルも必要です。応援することも、いっしょに運動をすることにも、様々な仕掛けがあるのです。

ダイモンカップで行う研修の最大の特徴は、自分自身で「自身のことを説明させない」、ということにあります。その日、参加者はひとりのスポーツマンでしかない。お互いを知るためにには、その日どんな風に一緒に遊んだか、それだけです。楽しかったらまた友達を誘つたりして、みんなで一緒に遊びましょう！

○パラスポーツ（ゴールボール／シッティングバレー）指導

一橋大学大学院社会学研究科 スポーツ社会学専攻 川田幸生 氏

シッティングバレー：ネットを挟む種目のため、対人関係が苦手であつてもボールに集中することで自チームの中の関係性に集中することができる。ボールがネットを越える度に相手チーム(他者)へ視線がうつる。繰り返すことで徐々に視線をあわせることや他者への関心の敷居が低くなる。また、座ることで目線の高さがある程度揃うため同じ視界の元1つのことを実践することで一体感を生み出せる。

ゴールボール：視覚に制限をかけた状態で実施。普段の見えている状況とは違う声かけや周りへの働きかけが必要とされるため、通常の種目とは異なりチームメイトからの声かけも同時に行なった。見える時と見えない時の両方を体験することを目的にアレンジした。

いずれの種目も回を重ねごとにチームメイトへの声かけ、指示が盛んに行なわれていた。特にゴールボールは目隠し状態で行なうため、最初の回はどのチームも不安から動きが硬く、声かけもほとんどなかつた。適宜運営しながら声かけをし、徐々にチーム内で進んでコミュニケーションがとられていた。

スポーツの特性であるが、ルールに基づく身体活動である。個人の所属や身分などに関わらずコートに立てば一律にプレイヤーとして活動できることから、それぞれのバックボーンを気にすることなくコート上では相互交流がなされていた。また、パラスポーツに関して言えばほとんどが体験したことの無い種目であったため、スタートラインが一緒であった。そのため上手い・下手など自身のスキルを気にすることなく参加できたものと考えられる。

プレイヤーとなり競技に夢中に取り組み汗を流すことで、一時的であっても目の前の課題・問題から解放され、楽しむことや感情が豊かになる。そうすると「楽しんでもよい」「ひとりではない。沢山の仲間がいる」と僅かながら自己肯定感に繋がるのではないかと考えている。イベントを通して、自己肯定の連鎖が続いていくことを願っている。

○ウォーミングアップ指導

バークレー整形外科スポーツメディカル 理学療法士 恩納千佳 氏

コミュニケーションの場、触れ合いの場、楽しい場所、運動できる場所、声を出せる場所などダイモンカップでは色々なことが可能、実現できるとても良い環境の場所だと感じた。健常人だけれど健常ではないというところ、パラスポーツを実際に体験することで、様々な障害を持っている人でもスポーツができる可能性というところに、今回参加したメンバーも感じてくれれば、出来ないではなく、「できるようにするために」などと発展していくのではないかと感じた。

今回は、ウォーミングアップや救護として関わらせていただきましたが、理学療法士には関わることのない方々と関わることができ、とても良い体験をしたと感じています。私たち理学療法士は、依存症や不登校の子たちなどに対する関わりの場はなく、健常人やスポーツ選手に携わることが多いのですが、今回このような方々と関わり、実際にスポーツを楽しんでいる風景を見ると、理学療法士にも何か関わることはないのか。汗をかくことの大切さ、できないことをどうやればできるのか、運動するとなぜか元気が出る。など、伝えられること、感じさせることはできるのではないかと考えさせられました。健常人が運動することは簡単なことかもしれません、健常だけれど健常には動けない人たちがどのようにすれば動くことができるのか。障害者で身体は不自由だけれど動かせる部位を使いスポーツが出来る。何か足りなくても、何かで補えば健常人と同じ。というところが今回のダイモンカップを通してとても良い環境の場で自分自身、感じることができたと思います。参加させていただきありがとうございました。



2 おべんトークセッション

障がい者支援といっても様々な支援機関があり、具体的なサポート方法も多種多様。各団体で「何をしているの？」「何に困っているの？」という話から、「私たちこれできるよ！」「こういった方法もあるよ。」とお互いに情報交換。ホームページやSNSなどから情報収集することよりも、「あ、この人がこういった支援をしている団体の方だな」と認識することで、相談しやすくなりますね。



参加者も巻き込んでクロストーク

ともに働くことを考える ~就労支援・障害者雇用の現場から~

障害者就労



沖縄県労働者福祉基金協会
平良ゆうき 先生

うつ病からのリワーク



株式会社 BowL
松門かなう 先生
山内しゅう 先生

依存症からの回復



沖縄ダルク
佐藤 SugarK 和哉 先生

●就労移行・就労準備支援

公益財団法人沖縄県労働者福祉基金協会 ジョブコーチ 平良有輝 氏

地域や家庭でのつながりが希薄になっていく中、孤立していく人たちが増えている現状があります。誰もが参画できる社会の仕組みづくりをしていくにあたり、私たち支援機関も協働して、障がいや依存症等の有無にかかわらず、一人ひとりが持っているチカラを発揮できる安心・安全な居場所、お互いが認めあえる環境を整備していくことが必要だと感じています。しかし、連携とは言いながら、そのネットワークを活かせずその狭間で支援が届いていない人もいることが事実としてあります。

ダイモンカップは参加者同士が結びつきを得るだけでなく、専門機関同士が「顔合わせ」、専門分野や支援対象ごとの縦割りの壁をなくす「心合わせ」、協働で情報発信、情報共有、機関どうしでのフォローといった「力合わせ」をし、誰もが参画できる社会づくりに取り組むきっかけになると感じています。

●依存症からの回復支援

一般社団法人沖縄ダルク 精神保健福祉士 佐藤和哉 氏

友達を作つて繋がるという意味では、アディクションの問題を持つ私たちにとってとても意味のあるイベントとなりました。アディクションの対義語はコネクション、つまり繋がりということです。孤独の病とも称される依存症は人に依存することが出来ず、物質や行為に依存せざるを得ないです。ダルクメンバー達は普段見せない笑顔を見せており、スポーツでチームプレーを通して、所属感を感じられたのではないかと思います。そして他の誰かとだけでなく、本当の自分自身に繋がったのではないかと思います。私たちの本当の姿を見て頂くことで、依存症に対する社会からのステigmaが軽減され、就労などの社会参加に結びついていくことを望んでいます。

●うつ病からのリワーク支援／障害者雇用

株式会社 BowL 精神保健福祉士・沖縄県障害者雇用研修講師 松門協 氏・山内修 氏

私たちの事業所では気分障害を対象にした就労支援を行っています。就労支援を行う中で、年々、企業側は精神障がいの方を雇用することへ前向きに取り組む姿勢が見られます。反面、障がい者雇用を検討している企業へ話を伺うと少なからず「不安」を抱えていることも感じました。不安を解消するためには「知る」ことが一番です。講義やシンポジウムのような一方向の学びではなく、このようなイベントを通して実際に障がいを持っている方と関わり合うこと、そして支援機関と繋がることが大切だと考えています。そうすることで、企業も雇用に関する不安を抱え込むことなく、当事者も支援機関と企業がつながることで安心して就労ができると思います。ぜひ、たくさんの当事者・企業の方に参加をしていただきたいです。

次回に向けて

今後は、企業の参加を促し、障がい者雇用を行うにあたり不安な点を支援団体と共有しながら抱え込まずに繋がりながら就労のサポートを行えるような場作りを行います。また、企業人事から障がい者雇用についてのヒアリングを行い、企業が必要としているサポートニーズの掘り起こしします。ヒアリングデータを元に、支援団体と協同しながら「障がい者と働く」ということを促進できるよう研修を構築していきます。

3 おべんとーくセッション／アトラクション

「おなじ釜の飯を食う」という言葉があるように、いっしょにお弁当を食べながら過ごす休憩時間です。アトラクションとして、沖縄ダルクの皆様がエイサー演舞を披露！

トークセッションのコーナーでは沖縄ダルクの佐藤氏からエイサー演舞が地域コミュニティに受け入れられる第一歩になるという話も！

事業所同士でお互いの強みや特技を見せ合う時間も、相互理解をする上で大事ですね。



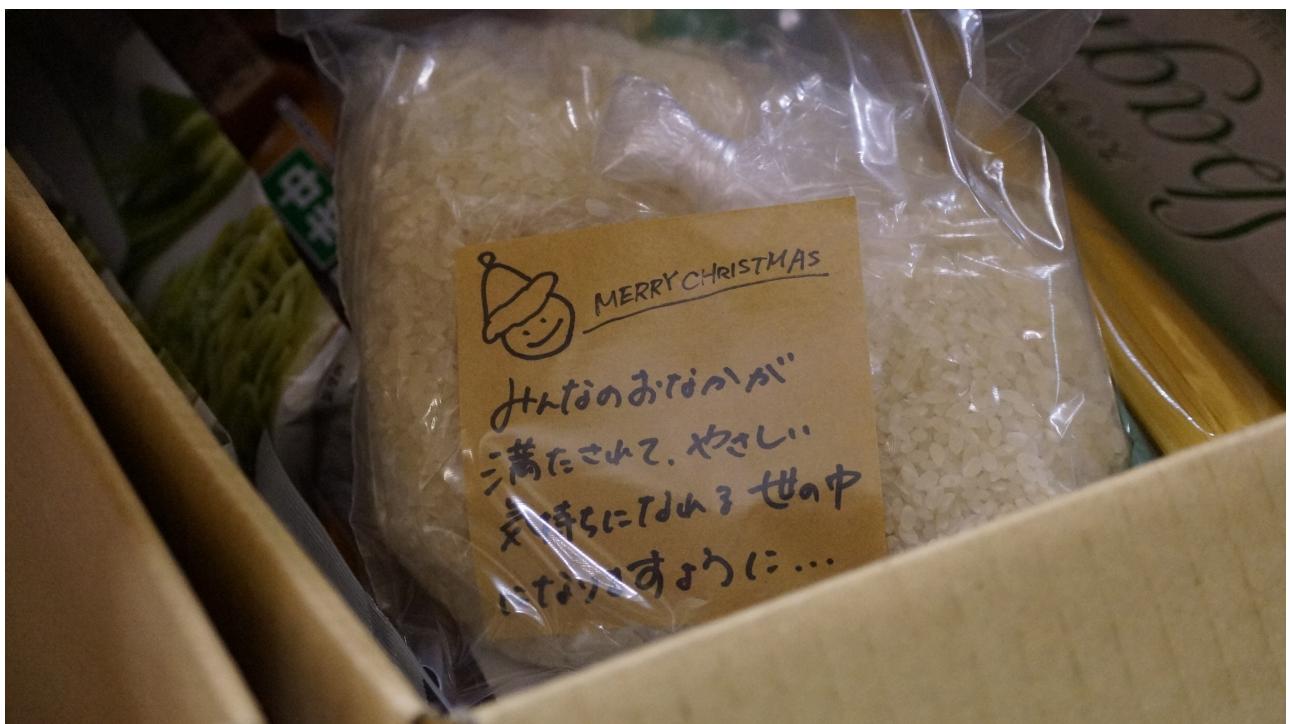
ダルクの皆様によるエイサー 強い気迫を感じました

4 さんかくアクション

毎年恒例となった「ダイモンカップで 1 カップ！」のフードドライブさんかくアクション。今年は 51 kg の食品が集まりました。この時期になると「今年の寄付はいつですか？」と声かけをしてくださる企業があります。ダイモンカップをきっかけに寄付が文化になっているようです。



株式会社國建の皆様は社内でこの日に合わせてフードドライブを実施！



メッセージ付きのギフトでスタッフもほっこりしました



NPO 法人フードバンクセカンドハーベスト沖縄より城間理事が挨拶に

ご参加頂いた皆様、ありがとうございました！
研修、相談ごとなどありましたらお気軽に問い合わせください

○△□実践型研修 2019 報告書

発行日：2019年3月30日

発行者：一般社団法人 daimon

連絡先：info@daimon-okinawa.com